

心に身近で興味をひくようなテーマを設定し、一義的な展開や啓発色の強いメッセージを発信するのではなく、自らの言葉で意見、情報を交換し、多様な性や生活のあり方を認め合いその雰囲気を共有するものである。自分達にとってのSEXを考え、語ることにより、SEXに対する興味や意識を喚起し、SEXと密接な関係にある性感染症に対する認識を促すことを目的とする。

また、SEXの話題の中にセーファーセックスに関する情報を盛り込んだり、プログラムの最後にSTIやセーファーセックスに関連する情報を提供するミニ勉強会を設けることにより、STIやセーファーセックスに対する知識向上と共に予防と共生の意識を浸透させることを目指すプログラムである。

#### (手法)

手法として以下の点を挙げることができる。

- ・ファシリテーターを設け対話形式での展開を行う。参加者が楽しんで取り組めるようなテーマに沿った資料やゲーム等を使用。
- ・CAFÉ CHATを問題なく円滑に進行させるためグランドルールを設ける。
- ・参加者が意見を発し、取り組みやすいような場所や雰囲気を設定する（カフェ形式etc）。
- ・プログラム最後15分程度のSTI勉強会や、SEXの話題の中にセーファーセックスを意識するような仕掛けを設ける。特に必要な情報として「感染症/経路/症状/対応/検査」「セーファーセックス/行為」「コンドーム/セックスの道具/使い方/入手方法」を盛り込むこととした。

今年度は、毎月第2土曜日の夜間20時～22時に意見交換と15分程度の勉強会を実施。対話や相談等の場となることに留意した。また、10月度ではPLuS+2009での展示パビリオンとして参加し、毎月使用しているく

dista>外の場所での対話や対話を醸成する企画を実施した。

広報として<SaL+>や<dista.b>での告知、mixi等を用いた。

#### (成果)

エロネタや恋愛ネタなどの身近なテーマ設定は参加者の興味をひき、参加者自身の積極的な発言を促すことができた。また、情報を持ち帰ってもらったり、実生活に役立つ情報を共有することの有意性が感じられた。

15分程度のミニ勉強会や対話の中でセーファーセックスを意識するための仕掛けを設けることで、必要な情報を的確に伝えやすく、参加者への意識づけが可能な機会となった。

スタッフ自身にとっても身近なテーマを扱い運営することで、企画の立案や情報の伝達の方法、ファシリテーション技術の取得に関して向上が見られた。

コミュニティスペース<dista>や少人数に対する運営は成功したが、今後新規クライアントの獲得を目指す場合の広報の手法や、運営方法の見直しが必要であると思われる。

プログラム実施状況は【付表9】のとおり。

#### ④若年層ネットワーク構築支援プログラム

##### <step>

##### (目的)

コミュニティにあまりアクセスしていない10代～20代の若者をターゲットとしたプログラムである。プログラムの目的として以下の点が考慮されている。

- ・コミュニティや、MASH 大阪に未接触の若者に対する入り口となる事
- ・参加者が<dista>へアクセスするようになる事
- ・他のプログラムへのボランティア・リク

ルートになる事

(方法)

事業は以下の点に留意しつつ展開した。

- ・啓発色をださず、季節感やお得感、遊びに行く、楽しむ、友達作りなどの企画を実施。
- ・コミュニティスペース<dista>へアクセスするきっかけを提供する。
- ・mixi (大手のSNS=ソーシャルネットワーキングサイト) を中心とした広報宣伝を行う。
- ・プログラムに関わるスタッフの友人の中であまりSTIの情報に触れていないクライアントの参加を促進させる。
- ・企画運営実行は主にコミュニティの若者が中心に行う。

(成果)

今年度は4回の企画を実施し、合計117名の参加があった。実施内容は【付表10】のとおり。運営スタッフのマンパワー不足により昨年よりも企画数が縮小したため、参加者数は昨年度の半分程度にとどまった。

企画に<dista>へのアクセスを盛り込むことで、新規参加者の約9割が<dista>を知り、必要なときに<dista>を利用するようになった。

また<step>参加者のうち7名がSaL+のアウトリーチにも参加した。また10名がPLuS+にボランティアとして参加し、ボランティアリーダーなど中心的な役割を果たす者もいた。

このように本プログラムは、MASH大阪が実施する多くのプログラムに関わるボランティアスタッフを獲得する重要なプログラムとなっている。stepからMASH大阪が提供する他のプログラムへの接触状況は【付表11】のとおり。またこれまでコミュニティと関わる機会が無かった人が、stepを入り口としてゲイ・バイセクシュアル男性向けの施設やイベント等に出向くようになる

等、コミュニティとの関わりを持つようになり、予防情報に触れる機会の向上に寄与している。

⑤ハッテン場におけるセーフターセックス促進環境整備プログラム<ハッテン場プロジェクト~β~> (商業系ハッテン場等でのコンドーム普及100%作戦)

(目的)

このプロジェクトは、関西圏の商業系ハッテン場において、利用者に対して十分な量のコンドーム及びローションが、セックスが行われる場所からなるべく手の届く範囲において提供されるための環境を構築するために実施される。

商業系ハッテン場は、不特定多数のMSMがセックスすることを目的として集まる場所であることから、MSMのセクシュアル・ネットワークにおいて、中心性が強い空間であるといえる。実際にセックスを行なう空間であり、かつ会話などのコミュニケーションなしにセックスが成立する空間であるため、セーフターセックスに関するネゴシエーションを事前に行いにくい。そのため、この空間におけるセーフターセックスの実践は「利用者個々人の意識・態度」ならびに「施設の雰囲気・環境」に大きく左右される。

そこで本プログラムにおいては「施設の雰囲気・環境についての介入」を試みる。

京阪神圏の商業系ハッテン場において、利用者がセックスを行なうのに十分な量のコンドームとローションが、セックスが行われる場所からなるべく手の届く範囲において提供される環境を、施設と十分に協議しながら構築する。

そして、利用者に対して安定的に継続してコンドームとローションが提供された場合のコンドーム使用率など、行動変容の推移を測定する。

## (方法)

このプログラムでは、関西圏の商業系ハッテン場の現地観察調査、オーナー・店長へのインタビュー調査（質問紙調査含む）、施設利用者へのインタビュー調査、利用者への質問紙調査、 Condom とローションの提供プログラムを組み合わせ実施し、関西圏の商業系ハッテン場において、 Condom 及びローションが利用者に対して十分な量で無償提供されるための環境を構築し、それに伴って利用者の感染予防行動がどのように変容するかを調査する。

## (事業の成果)

昨年度 1 月から～2 月に「ハッテン場オーナー・店長へのヒアリング」を実施し、施設規模・利用者人数・ Condom とローションの無償提供の意思と実態、またそのための問題点について把握した。これに基づいて Condom & ローション供給プログラムを計画し本年度 8 月～10 月に実施した。その結果、15 店舗に 3 ヶ月で合計約 60000 個の Condom キット（ Condom 1 個・ローション 1 包・セーフターセックスガイドなどが入っている）を供給した。 Condom & ローション供給プログラムの実施状況については【付表 12】のとおり。

供給プログラム終了後 12 月に再びハッテン場オーナー・店長へのヒアリング」を実施し、計画の修正を行ったのち 2 月～3 月に再度供給プログラムを実施予定である。

（ハッテン場利用者の Condom 使用に関する質的研究）

また昨年度 1 月から～2 月にハッテン場利用者に対してインタビュー調査を実施し、ハッテン場での Condom 利用に関してデータを得た。調査時期の関係から昨年度の報告書には未収録のため本報告書に採録する。

【研究目的】本研究は MASH 大阪がハッテン場において、より効果的な HIV 感染対策プ

ログラムを展開するために実施した。とりわけハッテン場における Condom 使用に関する規範を探ることで Condom 使用の阻害要因を明らかにし、それにより「ハッテン場におけるセーフターセックス促進環境整備プログラム＜ハッテン場プロジェクト～β～＞（商業系ハッテン場等での Condom 普及 100% 作戦）」において、どのような Condom アウトリーチが有効なのかを検討することを目的とした。

【方法】本調査ではハッテン場利用者 20 名に施設利用時における HIV 感染予防行動と、それに関連する要因についてインタビューを実施した。インタビューは書面による承諾を得た後、録音とメモにより記録された。記録データはテキスト化し、分析された。テキスト分析に当たっては「M-GTA（修正版グラウンディッド・セオリー・アプローチ）」（木下康仁『グラウンディッド・セオリー・アプローチ』2000）と、当該方法論をさらに実用化した「SCQRM（構造構成的質的研究法）」（西條剛央『質的研究とは何か』2008）に、マイノリティに関するテキスト分析法として 70 年代以降世界的に用いられている「ポスト構造主義」「社会構築主義」に則った言説分析法（ミシェル・フーコー『知の考古学』1970）（赤川学『セクシュアリティの歴史社会学』1999）を併せて用いた。テキストは切片化せずに文脈を損なわずに概念化され、概念間の構造が探索された。

【結果】ハッテン場における Condom 使用の阻害要因に関する分析を進める中で、利用者が既に「 Condom の重要性に関する情報」を持っており、かつ Condom に対して「強い使用意図」がありながらも、実際のセックスの場面で「相手から不 사용을提案」されると、その提案を「受け入れる」という概念構造が顕著に見られた。またこの時一方で「不使用する提案」を「拒否

する」との概念構造も同時に存在したため、分析の焦点を「不使用の提案」を「受け入れる」場合と「拒否する」場合の二つの概念構造を分かつポイントとした。その結果「コンドーム不使用の提案」はHIVネガティブの文脈では「相手もネガティブである」との理解のもとで「受け入れ」られ、HIVポジティブの文脈では「相手もポジティブである」という理解の下で「受け入れ」られるという概念構造が明らかとなった。これらの判断は、ハッテン場という非言語的状況下、とりわけ本人の期待的予期により主観的に解釈され判断される。期待的予期の背景には楽観やリアリティの欠如がある。その結果ハッテン場においてセックスの相手が表象する非言語的な記号性（しぐさや振る舞い、態度）などは、期待的予期によって、常に状況的に（本人に都合よく）解釈され理解される。その解釈が予防の観点から客観的に妥当しないことを本人は十分に理解しており、時にその意識がセックスの後の後悔や検査行動に結びつく。予防プログラムを立案する上で、概念構造から浮かび上がってくる最大のポイントは「不使用の提案」がなされる瞬間にある。ハッテン場においては、コンドームの重要性や予防の重要性、あるいはその方法が脆弱ではあれ規範となって全体化している。その規範は「不使用の提案」が無ければ破られない。「不使用の提案」がコンドーム不使用のトリガーとなっている点が重要である。「不使用の提案」という他者からのアクションがトリガーとなる背景には、「自らのアクションにより他者に感染を広げたくない」との思いがある。このような思いは、ポジティブであれ、（日常的にセックスがある以上100%ネガティブという現実があり得ないという意味で）ネガティブであれ広く基盤的に存在している。これはコミュニティの規範とも言い得るものである。

【考察】「楽観」を「現実」へと引き戻したり、HIV感染に対する「リアリティ」を獲得することは容易ではない。それらを実現するプログラムも必要であるし、それらは様々なコミュニティ規範を変えるプログラムによって時間をかけて実現してゆく必要がある。一方本研究で明らかとなった「不使用の提案」がコンドーム不使用のトリガーとなっているというポイントは、セックスの現場の環境を変えたり、メッセージの発信の仕方によって「コンドーム不使用」が「使用」へと変わる可能性を示唆している。先にも述べたがハッテン場においては、コンドームの重要性や予防の重要性、あるいはその方法が脆弱ではあれ規範となって全体化している。その規範を破る「提案」は、期待的予期によって受け入れられる。この状況は換言すれば「コンドーム不使用を提案する理由を、常に、しかも他律的に（他者や環境の中に）探している」状況であるとも言える。「近くにコンドームがない」「相手がコンドームを持っていない」「暗くて見えない」「コンドームを着けると痛い」「コンドームが外れてしまった」といった事柄が、コンドーム不使用提案のきっかけとなる。一度提案されてしまうと、双方に期待的予期があった場合コンドーム不使用へと至る。この場合「コンドームを使わなかった理由・根拠」は常に他者に預託される。「自らのアクションにより他者に感染を広げたくない」という規範が強固である中で、「主体的なコンドーム不使用」は存在せず、不使用は常に他者や環境にその原因が預けられる。ここからは、徹底した環境の整備が重要であることがわかる。環境の整備に際してはそもそも「コンドーム不使用を期待」する背景として、コンドームによる「性感の低下」や「扱いにくさ」といった点が表明されることを考慮する必要がある。コンドームをサイズや素材で選

扱えること、品質の高い Condom やローションを備えること、といった環境の整備が検討される必要がある。それによって「Condom 不使用を提案する理由が、他者や環境の中に見つからない」状況を実現する必要がある。

#### D. 考察

年度初頭に掲げた研究計画の項目にそって、研究事業の実施状況を「研究事業の実施状況まとめ」として F. の後ろで総括する。

#### E. 結論

1. プログラムはおおむね計画通りに継続された。コミュニティペーパーは内容的にモデルチェンジを果たしたが、その効果評価は来年度クラブ調査の結果を待たなければならない。中高年層への情報発信においてニーズが確認され、それに応えることが期待されている。STI 勉強会は次の展開を狙う位置にある。ドロップインセンターでは相談業務に進展がみられた。
2. ハッテン場への予防介入プログラムに大幅な進展がみられた。15 軒の商業施設に対し 3 ヶ月という比較的短期間に 6 万個弱の Condom パックを集中的に配布した。その効果評価はやはり来年度クラブ調査の結果を待たなければならない。
3. 発足当初から MASH 大阪は大阪府と緊密な連携を取りながら事業展開を行ってきた (STI 勉強会の事業委託) が、本年度に大阪府がエイズ対策基本方針の改訂に着手し、その作業に MASH 大阪が協力しつつある。来年度に向け、連携がさらに深まることが期待される。
4. 大阪地域においては薬物依存症を持つ MSM のあいだに HIV 感染が拡がりつつあることが確認されている。こうした状況に対処するため、薬物依存者支援の CBO との連携が進展、ドロップインセンターで関連のプロ

グラムが定期的に行われるに至った。

#### F. 発表論文等

##### (研究論文)

- 1) 市川誠一、木村博和、鬼塚哲郎、松原新、佐藤未光、井戸田一朗：MASH による啓発活動，総合臨床，50：2805-2810，2001.
- 2) 鬼塚哲郎：ゲイコミュニティへの予防介入事業，その現状と課題，日本エイズ学会誌，第6巻，第3号：141-144，2004.
- 3) 鬼塚哲郎、辻宏幸：MASH 大阪によるゲイコミュニティ向け HIV/STI 予防活動，保健師ジャーナル，第61巻，第2号：184-188，2005.
- 4) 金子典代、市川誠一、辻宏幸、後藤大輔、塩野徳史、鬼塚哲郎：健康教育ツールを開発しよう，計画②ツールを使えるものにするための最後の押さえどころ-MASH 大阪による健康教育資材の紹介，保健師ジャーナル，2007，63巻12号，1142-1149.
- 5) 金子典代、市川誠一、辻宏幸、鬼塚哲郎：健康教育ツールを開発しよう，計画③対象者にひびくメッセージをつくろう，保健師ジャーナル，2008，64巻1号，82-89.
- 6) 鬼塚哲郎、山田創平：感染に脆弱な集団にどう予防介入するか～マイノリティ集団における一次予防、二次予防、三次予防のあり方を検証する，治療学，vol. 42-no. 5，2008.

##### (国内学会発表)

- 1) 山田創平、鬼塚哲郎、辻弘幸、後藤大輔、鍵田いずみ、内田優、町登志雄、塩野徳史、市川誠一：商業施設を利用する MSM (Men who have Sex with Men) 向け HIV 感染予防プログラムの開発に関する形成的研究，第23回日本エイズ学会学術集会・総会，2009年11月26日.
- 2) 鬼塚哲郎、佐藤知久、鬼塚哲郎、西真如、山田創平、藤田淳志、竹田恵子：HIV 感染対策研究における人文学の応用可能性，

第23回日本エイズ学会学術集会・総会  
2009年11月27日.

(国際学会発表)

- 1) Background & gay NGO responses, Onitsuka T, Koerner J, Kaneko N, Ichikawa S: The HIV/AIDS epidemic among MSM in Japan, Satellite Symposium on HIV infection in developed east and south-east Asia, ICAAP Bali, 11 Aug 2009.
- 2) Onitsuka T, Koerner J, Kaneko N, Tsuji H, Goto D, Cho Y, Shiono S, Uchida S, Takenaka M, Ichikawa S: HIV infection

rates, risk & preventive behaviors of MSM in Asia, How does Japan compare?, poster presentation, ICAAP Bali, 10 Aug 2009.

- 3) Onitsuka T, Koerner J, Kaneko N, Yamada S, Shiono S, Tsuji H, Goto D, Machi T, Omori S, Kimura H, Ichikawa S: HIV risk & sexual behaviors of Middle Aged MSM: Findings from the 2007 Osaka bar survey, poster presentation, ICAAP Bali, 10 Aug 2009.

[研究事業の実施状況まとめ]

プログラム関連の 事業継続	ドロップインセンターdista	計画通りに執行されたが、利用者の増加は前年度に比べ微増にとどまった相談業務に進展がみられた
	コミュニティペーパーSaL+の事業継続	計画通りに執行された
	若年層のネットワーク育成 Stepの事業継続	計画通りに執行された
	STI 勉強会 Café Chat の事業継続	前年度獲得されたレベルが質・量ともに維持された
	ハッテン場プロジェクト	オーナーへのヒアリングに基づき、コンドーム配布プログラムを執行した
アウトリーチ関連	新たな商業施設との連携	新世界地区での新規開拓が課題として残った
アドボカシー関連の 事業継続	行政との協働事業の展開	地方自治体（大阪府）との連携に新たな展開がみられた
	CBO との連携事業の展開	薬物依存関連 CBO との連携が進展した
研究関連	プログラムの効果評価	2007 年度に引き続きゲイバー利用者調査（バー精密調査）が実施された
学会等での情報発信	The 9 <sup>th</sup> ICAAP	・サテライトシンポジウムにおいてシンポジストを務めた ・ポスターセッションにおける演題発表（2題）を行った
	日本エイズ学会	・演題発表（1題）を行った ・MSM 関連シンポジウムを企画・運営した ・展示ブースを設置し、会員に対し情報発信を行った

【付表1：SaL+配布実績- 2009年度（12月末時点）】

期間	配布された施設 (昨年度の数値)	送付団体・個人 (昨年度の数値)	配布された部数 (昨年度の数値)	配布スタッフ延べ数 (昨年度の数値)
2009年4月	185店舗(195店舗)	38団体(33団体)	6503部(6733部)	18名(23名)
2009年5月	185店舗(195店舗)	38団体(32団体)	6418部(6808部)	20名(20名)
2009年6月	186店舗(189店舗)	37団体(34団体)	6613部(6893部)	19名(22名)
2009年7月	186店舗(190店舗)	38団体(35団体)	6668部(6720部)	25名(17名)
2009年8月	190店舗(192店舗)	37団体(35団体)	6393部(7770部)	16名(20名)
2009年9月	187店舗(192店舗)	118団体(36団体)	7140部(7760部)	26名(37名)
2009年10月	186店舗(190店舗)	37団体(35団体)	6533部(6680部)	28名(18名)
2009年11月	186店舗(191店舗)	39団体(36団体)	6563部(6620部)	20名(18名)
2009年12月	186店舗(190店舗)	40団体(37団体)	7008部(6595部)	15名(7名)
2010年1月	187店舗(188店舗)	39団体(37団体)	6588部(6593部)	18名(19名)
2010年2月	店舗(188店舗)	団体(37団体)	部(6588部)	名(16名)
2010年3月	店舗(188店舗)	団体(37団体)	部(6603部)	名(20名)
2009年4月～ 2010年1月	月平均186店舗	月平均38団体 *9月を除外	月平均6643部 合計66427部	月平均21名 合計187名

【付表2：dista利用者状況- 2009年度（1月末時点）】

期間	MASH 大阪 業務来場者	イベント来場者 (うち初来場者)	ふらっと来た人 (うち初来場者)	来場者総合計 (うち初来場者)	稼働時間
2009年4月	74名	163名(23名)	515名(51名)	752名(74名)	188.5時間
5月	106名	253名(38名)	672名(75名)	1031名(113名)	223.0時間
6月	86名	101名(06名)	499名(21名)	686名(27名)	180.0時間
7月	82名	117名(08名)	517名(46名)	716名(54名)	192.0時間
8月	96名	159名(43名)	622名(71名)	877名(116名)	194.0時間
9月	159名	111名(18名)	505名(48名)	775名(81名)	188.5時間
10月	197名	198名(34名)	709名(108名)	1104名(157名)	189.0時間
11月	92名	185名(26名)	572名(45名)	849名(72名)	196.0時間
12月	55名	151名(15名)	483名(31名)	689名(48名)	184.0時間
1月	36名	178名(40名)	528名(58名)	742名(98名)	150.0時間
2月	60名	171名(09名)	587名(71名)	818名(81名)	139.0時間
3月	名	名(名)	名(名)	名(名)	時間
年度合計	1043名	1797名(290名)	6219名(625名)	9039名(921名)	2024.0時間
月平均	94.8名	163.3名(26.3名)	565.3名(56.8名)	821.7名(83.7名)	184時間

【付表3：dista利用者数年度別推移- 2009年度（2010年1月末現在）】

年度	合計	月平均
2003年度（平成15年度）	3436人	286.3人
2004年度（平成16年度）	5910人	492.5人
2005年度（平成17年度）	6187人	515.5人
2006年度（平成18年度）	8402人	700.2人
2007年度（平成19年度）	9377人	781.4人
2008年度（平成20年度）	9665人	805.4人
2009年度（平成21年度） 2月末現在	9039人	821.7人

【付表4：dista カフェイベントの実施内容一覧- 2009 年度（2010 年1月末現在）】

イベント名	イベント・教室の内容
Alt Café	陽性者、または陽性者の家族や近親者を対象にしたクローズド形式の親睦カフェ。月1回、第2土曜日の昼間に開催
Café CHAT	SEX について、STI についてのトークを織り交ぜ、参加者に自らの SEX を振り返ってもらい、STI の予防を促進させる。月1回、第2土曜に開催
Salon de ONI	ワインを楽しみながら、年齢層の高い人も交えてじっくり深い話が出る空間を提供する。月1回、第4土曜日に開催。
レインボーアディクションミーティング	LGBT の人たち向けの様々なアディクションからの解放と回復を目的としたグループミーティング。毎月第4木曜日に開催。
東方美男	中国茶やスイーツを手軽に楽しみながら、来場者同士でじっくり話の出来る空間を提供する。隔月1回、第1土曜日に開催。
CAMP!	映画を素材として、参加者と主催者でセクシャルマイノリティに関する話題を展開していくイベント。3ヶ月に1回開催。
Café LINK	日本酒を楽しみながらのんびりと語り明かし、参加者同士で交流を深める。不定期開催。
Café SMILE	dista 初心者でも楽しめるように、遊びの要素を詰め込んだカフェイベント。不定期開催。
STEP	10代、20代のゲイ向けの友達作りサークル。季節に合った場所に遊びに出かけ、交流を深める。不定期開催。
distage	イベントやDJをやりたい人達に人脈を広げてもらうことを目的にした新人発掘、育成イベント。不定期開催。
bruit blanc	音楽を通して dista の認知度を上げるとともにネットワークの構築を図る。不定期開催。
SANKAKU▼喪苦罵	音楽を「聴く」楽しみだけでなく、「演奏」する「セッション」するという楽しみ方を提供。不定期開催。
Café Sweets Time	主催者が作ったお菓子とお茶を楽しみながら参加者とスタッフが交流し、ネットワークを広げる。単発企画。
Lounge Nami	DJ+ドラッグクイーン+映像によるインスタレーション形式のイベント。ラウンジをコンセプトに、ゆっくり出来る場を提供。単発企画
恋に恋する世代	「恋愛とは何か?」をコンセプトにしたトーキングスナック。飲み物を肴に会話を楽しむ。単発企画。
and more...	深夜ならではのモノづくりを通じてSTIに興味を持ってもらう事を目的としたCafé CHAT、アトリエPとのコラボイベント。単発企画。
教室名	
二般ハングル教室	Gay のための韓国語会話教室。教室以外にも温泉旅行に韓国旅行など、メンバーの親睦も図るイベントも行う。隔週水曜、金曜に開催。
Sign-手話教室-	セクシャルマイノリティ対象の手話教室。日本手話でろう者と日常的な会話ができるようになる事を目的としている。隔週金曜日に開催。
4Q アロマ教室	性別を問わず、もっと身近にアロマセラピーを楽しんでもらうための教室。毎月第4木曜日開催。
アートワークショップ アトリエP	様々な画材を使って自由にモノ作りをする事を通して参加者にリフレッシュしてもらい、交流してもらおうオープンスタイルのワークショップ。毎月第3木曜開催。
たいがーりりい	性的マイノリティやセックスワーカーに関する問題を、毎回違うテーマに沿って話しあう対話イベント。毎月第1木曜開催。

【付表5：dista 展覧会の実施内容一覧- 2009 年度（2010 年1月末現在）】

タイトル	アーティスト	期間	来場者数
大漁鱈展 大阪編	四聖 鯨	8月8日～8月24日	56名
オペラグラフィカ “赤ずきんとオオカミ” ～Little Red Food Who Loved The Wolf～	オナン・スベルマーメイド シモーヌ深雪	9月19日～10月3日	55名
市川和秀個人展「色々天国」	市川 秀和	10月7日～10月26日	74名
ARITA TADASU EXHIBITION	有田 匡	12月24日～1月22日	101名



【付表6：dista相談件数の推移- 2009年度（1月末現在）】（電話相談・別目的での来場後に相談へ移行したものを含む）

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
2004年度	1件	3件	4件	3件	0件	1件	0件	0件	0件	3件	3件	0件	18件	1.5件
2005年度	2件	2件	0件	4件	1件	5件	1件	1件	1件	1件	0件	1件	19件	1.6件
2006年度	6件	10件	4件	0件	1件	7件	1件	3件	3件	6件	3件	5件	49件	4.0件
2007年度	5件	7件	23件	15件	9件	7件	19件	5件	5件	0件	0件	2件	97件	8.1件
2008年度	19件	10件	19件	18件	20件	19件	21件	32件	18件	23件	20件	27件	246件	20.5件
2009年度	10件	31件	16件	26件	14件	28件	19件	27件	21件	33件			1月迄 225件	1月迄 22.5件

【付表7：dista相談内容の状況- 2009年度（1月末現在）】

相談内容（複数チェック）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
HIV感染不安				2	1	3	1	3	2	1			13
STI感染不安		1		2	1	3	1	2	1	1			12
HIV検査に関する相談/報告	1			2				4	3				10
STI検査に関する相談/報告				2				2	1				5
エイズに関する一般的な質問	1	1		2	1	1	1	4	1	6			18
HIV+としての生活/制度など		2	3	4					1				10
HIV+支援について	1	1		1					1				4
相談機関紹介		1				1	1	3	2				8
LGBT団体、ネットワーク紹介		1		2		2	1	1	1	1			9
店舗情報紹介		1					3			2			6
パートナーとの関係について	1	1			1	1			1	2			7
家族との関係について	1	5	1		2	1			1	1			11
結婚について	1												1
進学・仕事・就職について	1	3	3	2	1	1		1		3			15
金銭問題・経済的な不安/問題		2	3		1	1				1			8
将来についての不安	1				1	3				1			6
シニアとしての生活不安										2			2
恋愛相談		1		1				1		1			4
精神的不安	1	5	3		3	2	2		1	1			18
アイデンティティ、カミングアウト		1		2		2	1	1		2			9
薬物使用について		2							1				3
薬物依存からの回復について		1	3	3	1	3	5	3	2	4			25
医療機関への緊急搬送支援													0
口腔ケアその他健康管理													0
研究デザイン・論文等について					1	1	1		1	2			6
医療相談								1					1
NPO/CBO組織運営について							1	1		1	2		5
その他	1	2		1		2	1	1					8
合計	10	31	16	26	14	28	19	27	21	33			225

【付表8：distaスタッフ研修プログラムの内容—2009年度 2010年1月末現在】

開催日	テーマ	参加者数
2009年6月	「HIV/STIの基礎知識」 HIV/STIの基礎知識について現時点でどのくらい理解しているかについてのテストを行い、足りないスキルや必要な知識の確認、共有を行った。	6名
7月	「セクシャルヘルスとは何か?」 講師：鬼塚哲郎（MASH大阪）、辻宏幸（MASH大阪）、山田創平（MASH大阪） WHOによる「健康」の定義をもとにセクシャルヘルスとは何かについてグループワークを行い、その後全体で共有した。	17名
8月	「対人支援の基礎」 講師：仲倉高広さん（国立大阪医療センター／臨床心理士） 医療機関におけるHIV相談の現状を学び、医療機関とCBOそれぞれにおける対人支援のあり方について、意見交換を行った。	16名
9月	「対象の多様性シリーズ（1）SW、外国人、TGなど」 講師：鍵田いづみ（MASH大阪） セックスワーカー、外国籍住民、トランスジェンダー等の対称層について基礎知識を学び、HIV/エイズについてそれぞれ固有の課題と紹介できるリソースについてグループワークと共有を行った。	11名
10月	「HIV治療と福祉制度」 講師：岡本学さん（国立大阪医療センター／ソーシャルワーカー） HIV治療と日本の医療制度の実際について学び、医療機関におけるソーシャルワーカーの役割とCBOの連携のあり方について考えた。	15名
11月	「対象の多様性シリーズ（2）依存症とHIV/AIDS」 講師：倉田めばさん（大阪ダルク） 依存症の基礎知識とダルクの活動について学び、倉田さんやスタッフの体験談をもとに、薬物依存症とHIVについての支援のあり方について考えた。	13名
12月	「HIV検査から支援まで」 講師：岳中美江さん（CHARM、陽性者サポートプロジェクト関西） 検査体制の現状と支援について学び、これから検査を受ける人から結果を受け取った人までを含めた包括的な支援はどうあるべきか、また予防・検査・支援を担当する各々のセクターの連携などについて考えた。	11名
1月	「日常の健康管理を含む「セーフアセックス」の基礎知識を対人援助として伝えるスキル」 講師：内田優（MASH大阪）、中村祐子（MASH大阪）	7名
2月	「コミュニティとの協働」 講師：鬼塚哲郎（MASH大阪）、辻宏幸（MASH大阪）、町トシオ（MASH大阪）	12名
3月	「振り返りと評価」 講師：内田優（MASH大阪）、辻宏幸（MASH大阪）	12名

【付表9 Cafe Chat プログラム実施状況- 2010年1月末現在】

開催日	企画タイトル	参加者数 (新規参加者)	内容
2009年 1月	「ゲイ春！セックスカルタ会 2009」	8名(2名)	ゲイのセックスや恋愛、性感染症などについての歌が書かれたカルタを参加者で取り合い、詠まれたカルタに書かれている事柄について解説したり、意見交換を行った。使用資材◆カルタカード
2月	「セックスクエスチョン」	7名(2名)	セックスに関する疑問や質問を事前に dista 来場者から募ったものと当日の参加者からも募ったものをもとに意見交換を行った。セーフセックスに関する疑問、質問を取り上げることで、参加者への意識喚起につなげた。使用資材◆投稿文形式の質問カード
3月	「HIV LIFE」	26名(1名)	equal partner project 主催の「+ = ○」を dista で展示していたため、それをゆっくり観覧し談話できる雰囲気を意識したカフェイベントを開催した。自分にとっての HIV や陽性者の存在、また感染することについて考える機会となることを意図した。
4月	「コンドームフェア」	54名(10名)	お花見企画の一環として、dista に来場した参加者に向けてコンドームの展示や解説を中心としてカフェイベントを開催した。多種多様なコンドームを展示し、実際に触れることでコンドームへの興味と親密度を高めることを意図した。使用資材◆20種以上のコンドーム
5月	「初めての○○」 STI 勉強会 「検査について」	9名(4名)	初ゲイタウンや初セックス、初恋などと書かれたサイコロを振り、出た目の内容について発表し、意見交換を行った。自身の体験の振り返りや他者の意見を聞く機会となった。STI 勉強会◆資材をもとに検査場の案内や検査の内容等検査関連の基礎情報の解説を行った。使用資材◆初体験サイコロ、検査関連資材
6月	「KISS☆キス☆接吻」 STI 勉強会 「オーラルケア」	7名(3名)	印象深いキスやキスの種類、キスのテクニックなどキスについての体験や考えを意見交換した。STI 勉強会◆キスに関連してオーラルケアについて意見交換をした。歯周病や口臭、口腔内に感染する性感染症についてなど適宜解説をした。
7月	「求めて☆求められて-SEX 編-」 STI 勉強会 「Safer Sex」	7名(3名)	SEX をする相手に対して、求めること、求められたいことについて意見交換を行った。STI 勉強会◆Safer Sex を意識する上において求めたいこと、求められたいことについて意見交換を行った。自身の Safer Sex について振り返り、またそれを相手と共有することをイメージする機会とした。
8月	「見えるエロ・隠すエロ」 STI 勉強会 「感染経路ってナニ？」	6名(3名)	人体図をもとに、見えているからこそ、もしくは見えていないかここそよりエロスが際立つ体の部位や特徴についての意見交換を行った。STI 勉強会◆人体図に感染経路と考えられる部位をチェックしてもらい、参加者にどんな症状や事例が考えられるかを発表してもらい、適宜解説を行った。使用資材◆人体図
9月	「突っ込め！突っ込まれ☆SEX ク エスチョン」 STI 勉強会 「コンドームイロイロ」	6名(4名)	多種類のコンドームの山の中にセックスに関する疑問や質問を記載したカードを散りばめて、そのカードの内容をもとに意見交換を行った。また質問カードの中にコンドームに関するものを入れておき、コンドームの話題へとつなげた。使用資材◆20種以上のコンドーム、質問カード
10月	「PLuS+2009 展示～SEX CHAT～」	約150名	恋人探しや SEX 時に“気になる”ことを広義にまとめ、それと STI に関する事柄とを絡めたテキストシート展示し、観覧者からコメントを寄せてもらった。それについて意見交換をし、了解を得て展示した。使用資材◆展示パネル、コメント記載用シート
11月	「スポーツの秋、SEX の秋」 STI 勉強会 「ざぱりアナルセックス」	9名(4名)	「するのが好きなスポーツ」と「イケルスポーツ」を参加者それぞれから挙げてもらい、意見交換を行った。STI 勉強会◆肛門から S 字結腸まで書かれた図をもとに、アナルセックスにまつわるプレイや STI についての意見交換と解説を行った。
12月	「クリスマスデート」 「エロ川柳歌詠み会」	7名(4名)	SEX をするという前提としたクリスマスデートというテーマでデートプランを参加者其々に立ててもらい意見交換を行った。その後、翌月のカルタ会で使用するカルタの歌詠み会を翌朝まで実施した。使用資材◆プラン記入シート、川柳記入用紙
2010年 1月	「ゲイ春！ セックスカルタ会 2010☆」	7名(4名)	ゲイのセックスにまつわる内容のカルタ取りを行い、上位3名を表彰した。また先月行った歌詠み会から優秀作品を選出し、それを新作カルタに組み込んだ。特に優秀な歌人を表彰した。

【表10：step企画実施状況- 2009年度（2010年1月末時点）】

時期	企画	参加者			参加者の dista への来場			Mixi コミュニティ 登録者数
		合計	内訳		合計	内訳		
			step 初参加	参加経験あり		新規来場者	リピーター	
4月	お花見 step	64名	36名	28名	50名	28名	22名	313名
6月	バス step	13名	6名	7名	9名	0名	9名	313名
7月	スバ step	10名	0名	10名	10名	0名	10名	316名
8月	超 step	30名	15名	15名	30名	15名	15名	318名
合計		117名	57名	60名	99名	43名	56名	

【表11：stepから他のプログラムへの接触状況- 2009年度（2010年1月末時点）】

アウトリーチへの参加	7名
Sal+への参加	1名
Café CHAT へ参加	3名
dista コンシェルジュへの参加	0名
Community space dista へ新規来場	43名
PLuS+2009 ボランティア	10名
合計	64名

【表12：ハッテン場プロジェクト～β～ Condominium&ローション供給プログラム実施状況- 2009年度（第1回）】

	地区	施設名	施設分類	1ヶ月供給量	期間供給量合計
1	堂山	施設 A	サウナ系	5000 バック	15000 バック
2		施設 B	サウナ系	3200 バック	9600 バック
3		施設 C	ヤリ部屋系	1200 バック	3600 バック
4		施設 D	ヤリ部屋系	1000 バック	3000 バック
5		施設 E	ヤリ部屋系	800 バック	2400 バック
6		施設 F	ヤリ部屋系	800 バック	2400 バック
7		施設 G	ビデオボックス系	400 バック	1200 バック
8		施設 H	ビデオボックス系	400 バック	1200 バック
9	ミナミ	施設 I	ヤリ部屋系	600 バック	1800 バック
10		施設 J	ヤリ部屋系	200 バック	600 バック
11		施設 K	ビデオボックス系	200 バック	600 バック
12	新世界	施設 L	サウナ系	3200 バック	9600 バック
13		施設 M	サウナ系	1200 バック	3600 バック
14		施設 N	サウナ系（ヤリ部屋系）	1000 バック	3000 バック
15	京橋	施設 O	ビデオボックス系	400 バック	1200 バック
15 店舗				19600 バック	58800 バック

## 福岡地域における男性同性間の HIV 感染予防介入研究

研究分担者：山本政弘（国立病院機構九州医療センター）

研究協力者：牧園祐也、川本大輔、北村紀代子、新納利弘、狭間隆司、橋口卓、濱田史朗（Love Act Fukuoka）、井上緑（国立病院機構九州医療センター）

### 研究要旨

平成 21 年度は、昨年度実施したバーアンケート調査での効果評価と、昨年度からのコミュニティの層別解析により活動を展開した。前年度までのゲイコミュニティでのソーシャルネットワーク解析などにより、啓発団体またはコミュニティセンターに近い層ほどより予防行動をとる、との報告があるため、MSM 集団における層別解析を充実させ、各層をより啓発団体またはコミュニティセンターへと誘導することも一つの戦略的啓発手段として、福岡のゲイコミュニティにおける総合的な啓発のアプローチを試行した。

### A. 研究目的

九州は、東京・大阪などの大都市に続き年々 MSM の HIV/STI 感染が増加傾向にあり、感染拡大は留まることを知らない状況である。地方都市とはいえ、男性同性間の性交渉における予防啓発は急務であり、十分な対策を講じなければならない。

本研究は、九州の中でも特にゲイコミュニティの規模の大きな福岡地域における、MSM の HIV/STI 感染予防啓発の推進とその評価、そして、地方都市でのゲイコミュニティに対する啓発普及のモデルケースの提示を目的としている。

### B. 研究方法

今年度、福岡地域の MSM に向けて以下のアプローチを行った。

1. MSM コミュニティの層別解析
2. 戦略的啓発の試行と評価
3. 有用性を証明された啓発の継続と検証
4. 他地域との活動のネットワーク化
5. コミュニティ内での連携強化
6. 行政及び外部協力者との連携

### C. 研究結果

#### 1. MSM コミュニティの層別解析

初年度、ソーシャルネットワーク調査（携帯アンケート調査）を基に提示したコミュニティの層別解析（層別解析 ver1.0）を、さらに「コミュニティセンターhaco への来場の有無」を基に分析し ver1.5 へと改良、それを基にした戦略的啓発計画を ver2.0 に示した。以降の「層」表記は、全て層別解析 ver2.0 によるものである。

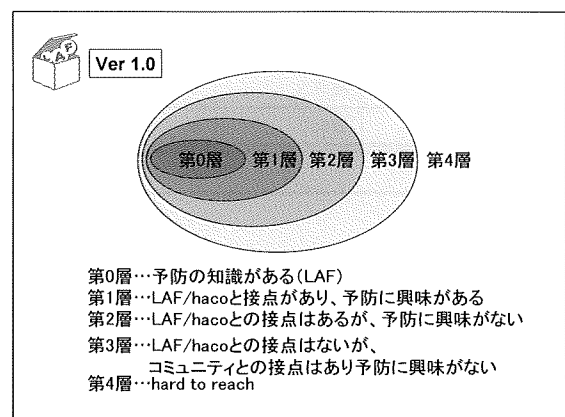


図 1 MSM コミュニティの層別解析 ver1.0

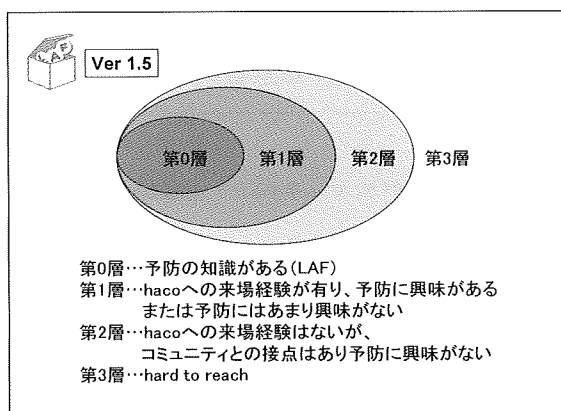


図2 MSMコミュニティの層別解析 ver1.5

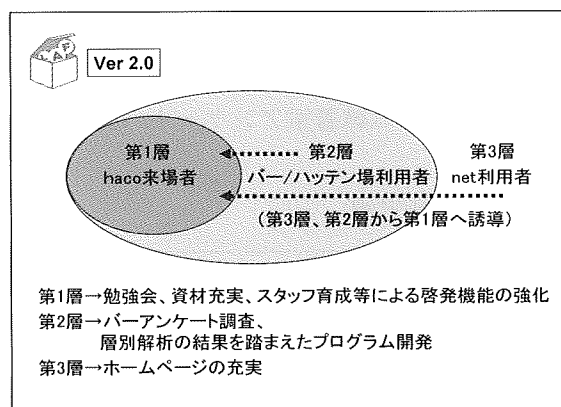


図3 MSMコミュニティの層別解析 ver2.0

## 2. 戦略的啓発の試行と評価

1) 第3層「net利用者」を対象とした啓発活動：ホームページのリニューアルと携帯サイト開設

ゲイコミュニティとの接点(バー/ハッテン場など商業施設利用)がなく、主に出会い系サイトなどのnet利用で性的接触の機会を得ていると思われる第3層「net利用者」は、MSM 集団のなかでも特に予防啓発情報の届きにくい hard to reach (直接の介入が出来ない対象)であるといえる。

この第3層を対象としたプログラムとして、今年度 LAF ホームページのリニューアルと、携帯サイトの開設を行った。

従来のコンテンツに加え、検査情報の充実や、最新のエイズ動向報告のデータ掲載など、これまでよりもより深く広く HIV/STI に関する情報を取得し易い環境を整えた。またリニューアルに合わせ、携帯サイトも新規に開設。

若年層を中心に増えつつある「携帯しか使わない」対象へのアプローチも可能となった。

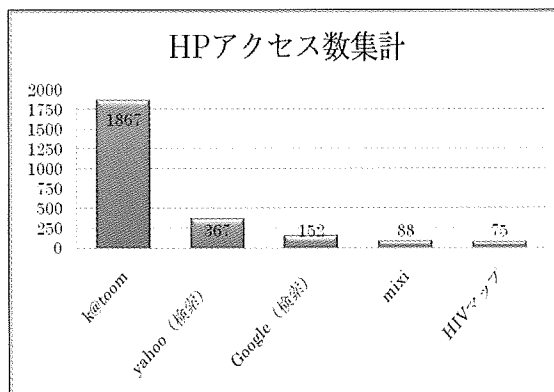


図4 LAF ホームページアクセス数集計

※6月～2010年1月までの上位5位を集計

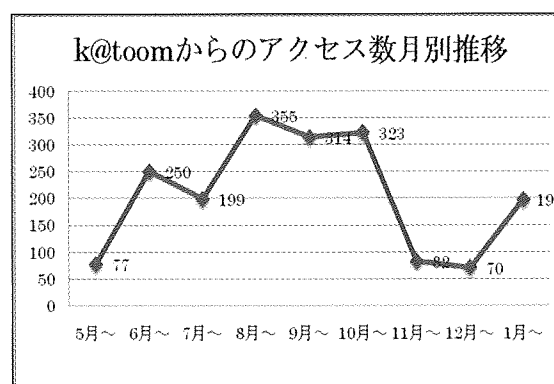


図5 ポータルサイト k@toom からのアクセス数月別推移

2) 第2層「バー/ハッテン場利用者」を対象とした啓発活動：コミュニティセンター誘導プログラムの実施

ゲイコミュニティへの接点(バー/ハッテン場など商業施設利用)はあるものの、コミュニティセンターへの来場経験がなく、また予防啓発に興味のない第2層には、まずは予防啓発活動に接してもらい、興味を持ってもらうことが必要である。そこで、これらの層へはコミュニティセンターへの誘導を主な目的とし、啓発色のない展示会やライブイベントの開催、haco 貸し等を行い、誘導意識しつつ啓発要素も考慮したイベントとして「ビューティートーク」を開催した。

・「ビューティートーク」

著名でかつ予防情報にも精通したパフォーマーによるトークイベントを開催。パフォーマーの知名度により興味関心を集め、またパフォーマー自身がトークの中で HIV/STI に関する情報提供を行うことにより、参加者に楽しく、より身近に知識を得てもらうことを目的とした。また、「ビューティートーク」二回目の lesson. 2 では、20 代の若年層を中心に人気の高いバーをイベントスペースとして借し開催。より多くの若年層へのアプローチを図った。

3) 第1層「haco 来場者」を対象とした啓発活動：センター来場者啓発プログラムの実施

haco 来場者の中でも特に、予防啓発に興味を持っている来場者を対象に、HIV/STI 勉強会「Dr. YAMAMOTO の生で聞いてよっ」を開催し、haco 来場者に対し予防情報の提供を行った。

また haco 来場者の中でもまだ予防啓発にあまり興味を持っていない来場者に対しては、自己分析とライフキャリアプランニングを通し、自身の健康問題に目を向けてもらうことを目的としたワークショップ「my life」や、昨年度行われたインターネット調査「REACH Online 2008」の報告会、「コンドーム試着室」「HIV 感染と医療費負担について」などの勉強会を開催し、予防への興味を促した。

・「コンドーム試着室」

コンドーム装着に関する勉強会の開催と、一般的に販売しているものから珍しい種類のものまで、数十種類におよぶ市販のコンドームを展示し、金額や購入可能な場所等を一緒に掲示した。興味のあるものをどれでも一個持ち帰ることができるようにし、自分に合ったものを見つけてもらうことで、コンドームの自主的な購入と使用の促進を図った。

また、使用後のアンケート提出者にはジェ

ルなどの景品を用意。より多くの来場者誘導と、コンドームに対する意識調査を行った。

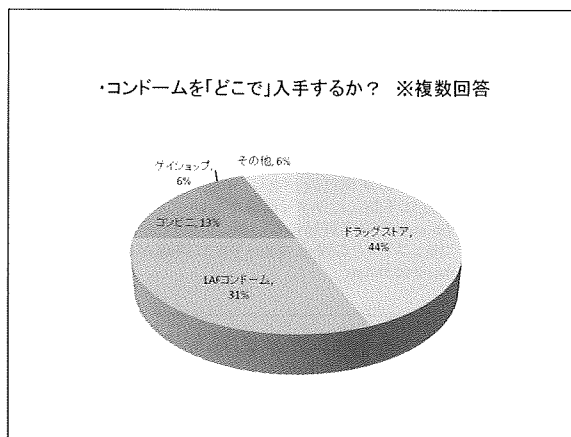


図6 コンドーム試着室アンケート (抜粋)

(平成21年度実績)

①コミュニティセンター誘導プログラム

・展示会

開催期間	展示会名	総来場者数
5/1~6	マルハク×Living Together 「みんなのTシャツ展」	106名 (12名)
9/6~10/4	ぼんてくてん	103名 (24名)
10/10~11/10	taku庵落展	156名 (28名)
2010/2/7~3/7	九州女装連合展	—

※()内は展示期間内における初来場者数

図7 平成21年度実績 コミュニティセンター誘導プログラム(展示会)

コミュニティセンター誘導プログラム

・イベント

開催日	イベント名	来場者
7/4	セタライブ「星に願いを」	7名(1名)
7/18	ぼんてくてん ライブ	5名(2名)
9/19	ビューティートーク lesson.1	5名(1名)
9/20	ビューティートーク lesson.2(haco外)	約90名

※()内は初来場者数

図8 平成21年度実績 コミュニティセンター誘導プログラム(イベント)

①コミュニティセンター誘導プログラム

・haco貸し

開催日	貸し出しイベント名	来場者
4/14	マルハク説明会	31名(26名)
7/14	Love Tribe Fukuoka ミーティング	5名(0名)
7/28	Love Tribe Fukuoka ミーティング	4名(0名)
10/31	FGSC 手話教室 vol.1	9名(7名)
11/28	FGSC 手話教室 vol.2	12名(4名)
12/7	Love Tribe Fukuoka ミーティング	5名(0名)
12/26	FGSC 手話教室 vol.3	10名(3名)
1/16	FGSC 手話教室 vol.4	14名(2名)

※()内は初来場者数

図9 平成21年度実績 コミュニティセンター誘導プログラム(haco貸し)

①コミュニティセンター誘導プログラム

・haco貸し

開催日	貸し出しイベント名	来場者
4/14	マルハク説明会	31名(26名)
7/14	Love Tribe Fukuoka ミーティング	5名(0名)
7/28	Love Tribe Fukuoka ミーティング	4名(0名)
10/31	FGSC 手話教室 vol.1	9名(7名)
11/28	FGSC 手話教室 vol.2	12名(4名)
12/7	Love Tribe Fukuoka ミーティング	5名(0名)
12/26	FGSC 手話教室 vol.3	10名(3名)
1/16	FGSC 手話教室 vol.4	14名(2名)

※()内は初来場者数

図10 平成21年度実績 センター来場者誘導プログラム(勉強会)

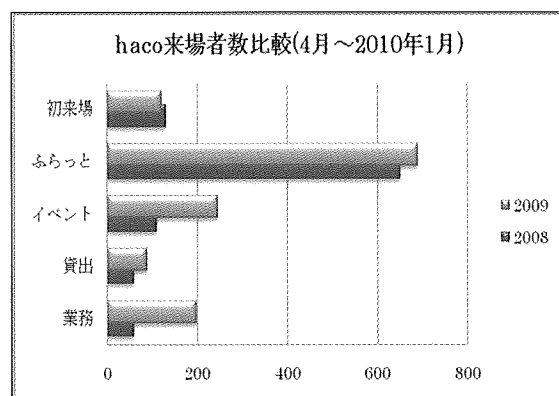


図11 平成21年度実績 コミュニティセンターhaco来場者数比較(4月～12月)

### 3. 有用性を証明された啓発の継続と検証

#### 1) コンドームアウトリーチ

福岡のゲイコミュニティにおいて、コンドーム使用率を上げるための環境を作ることを目的とし、平成16年度より福岡市、さらに平

成17年度からは北九州市を中心としたMSM商業施設に対し、コンドームの配布を継続して行っている。一回につき1店舗50～100個のコンドームを配布。店舗には専用のディスペンサーを設置してもらっており、その店舗の利用者が自由にコンドームを持ち帰れるようになっている。

今年度は、コンドームの自主的な購入と使用の促進を主な目的としたため、コンドーム配布はこれまでの2、3ヶ月に一回のペースから年4回のコミュニティペーパーseasonの配布時にのみ行い、それ以外には要望があったバーにのみ補充を行った。

#### 2) コミュニティペーパーseason

今年度もコンドームアウトリーチと並行し、コミュニティペーパーseasonの制作と配布。#17～20の各3,000部を発行し、バー及びハッテン場等商業施設への配布を行った。

また、#19よりリニューアルを実施。コミュニティからの要望により、商業施設等を掲載している裏面MAPを一面で確認できる見開き状へと変更。より利便性の向上を図り、情報量を増やした。

### 4. 他地域との活動のネットワーク化

昨年度より、活動のネットワーク化を目指し取り組んできた北九州市でのアウトリーチが、地元協力者により定例化。今年度は博多でのアウトリーチと同様、北九州小倉地域でもコミュニティペーパーseason発行に合わせたアウトリーチを行い、MSMコミュニティへの定期的なアプローチを行った。

### 5. コミュニティ内での連携強化

#### 1) Love Tribe Fukuokaの組織とマルハクの開催

昨年度、コミュニティ内の既存イベントの中での予防情報提供を考え、LAF主導により、イベントオーガナイザー4名(BIG FACE、Sound




Summit、博多 RIOT より) との協同体「Love Tribe Fukuoka (以下 LTF)」を組織。この LTF により、「福岡のセクシャルマイノリティコミュニティの総合的な活性化と HIV/STI の予防啓発」を目的としたイベントウィーク「マルハク」を企画、開催した。

各イベント会場で HIV/STI 予防啓発資材を設置および配布。特にマルハク唯一の gay only イベントであるブルジョア男太鼓の会場では、スタッフが Living Together (以下 LT) の T シャツを着用し、HIV 陽性者の手記集などの LT 計画の資材類を配布。来場者 MSM に対する LT メッセージの積極的なアプローチを行った。

・マルハク×Living Together「みんなの T シャツ展」

LT 計画とのコラボレーションにより LAF が企画した展示会。イラストレーターや、DJ、マルハクイベントオーガナイザーなど 10 名が「Living Together」をテーマにデザインした T シャツを展示。また、それぞれのデザイナーが HIV 陽性者の手記を読んで感じたこと等も掲示した。



1) Love Tribe Fukuokaの組織とマルハクの開催

期間: 2009年5月1日(金)~6日(日)

1日 ~6日	マルハク×Living Together 「みんなのTシャツ展」@haco	(期間中) 106名
1日	博多RIOT(gay mix Rockイベント)	約50名
2日	Sound Summit(gay mix 音楽イベント)	約120名
3日	ブルジョア男太鼓(gay only クラブイベント)	約270名
3日	ヒビダンシン(girl onlyラウンジイベント)	約90名

1日~6日 博多区を中心とした  
ゲイバー・ハッテン場・ショップ合同のスタンブラリーを開催

図 12 イベントウィーク「マルハク」実績

## 6. 行政及び外部協力者との連携

### 1) 行政との連携

今年度は新型インフルエンザの流行により、行政関係者との連絡会議「セクシャルヘルス懇談会」の開催が叶わず、福岡県・福岡市主

催によるエイズデーイベントも開催されなかったため、協働には至らなかった。

### 2) 外部協力者との連携: 福岡での MSM メンタルヘルスサポート体制の構築

コミュニティセンターhaco 開設以来、HIV 陽性、陰性に関わらず、来場者から鬱症状などのメンタル面での不調による相談希望が後を絶たない。現在のところ haco は相談業務を行っていないため、そのような場合には専門機関への紹介を行っているが、来場者の増加に伴いスタッフの対応にも限界が見え始めている。そこで今年度、福岡における MSM のメンタルヘルスサポート体制構築の検討を目的に、九州医療センター 臨床心理士の辻麻理子氏、飯塚記念病院 精神科医の小楠真澄氏を講師とし「福岡在住 MSM の HIV 感染とメンタルサポート」と題した勉強会を開催した。

## D. 考察

### 1. MSM コミュニティの層別解析

一度細分化し分析したそれぞれの層を対象としてあらためて捉えなおすことで、これまで曖昧だったコミュニティの多様性と構造を再認識することができ、プログラムごとのアプローチの対象を明確に定めることが出来るようになった。今年度のプログラムは、この層別解析を基に考案、実施している。

### 2. 戦略的啓発の試行と評価

1) 第3層「net 利用者」を対象とした啓発活動: ホームページのリニューアルと携帯サイト開設

ホームページアクセス数の集計結果を見ると、九州地区の MSM 対象のポータルサイト「k@toom」からのアクセスが平均して一番多く、その k@toom からのアクセス数を月別推移を見ると、LAF/haco イベントの告知後は格段にアクセス数が上昇していることが分かる。ホームページアクセスによる LAF/haco 認知増、

および LAF ホームページ内での予防情報取得の可能性は、十分に期待できる。

今年度のデータをベースとし、来年度はさらに PC と携帯それぞれのアクセスデータを分析し、LAF ホームページ到達までの道程を探ることにより、net 層のさらなる解析を行う予定である。

2) 第2層「バー/ハッテン場利用者」を対象とした啓発活動：コミュニティセンター誘導プログラムと、センター来場者啓発プログラムの実施

#### ①コミュニティセンター誘導プログラム

IT 計画とのコラボレーションである「みんなの T シャツ展」では、マルハクというイベントウィーク中の開催ということもあり、6 日間という短期間の中で 106 名もの来場者があり、内初来場者が 12 名あった。その他、外部協力者との協働により開催した展示会/イベントでは計 65 名の初来場者があり、「haco 貸し」としてのコミュニティセンター利用による初来場者は 40 名であった。

バーをイベントスペースとして借用し開催した「ビューティートーク」lesson. 2 は、コミュニティセンター haco で同日開催した「コンドーム試着室 vol. 1」との相乗効果により、haco への多くの新規来場者を得ることができた。コンドーム試着室は単日開催の予定であったが、好評のためヶ月程継続して展示。来場者への購入と使用を促している。

昨年度と比較すると、総来場者数は約 25% (263 名) 増加。誘導プログラムによるコミュニティセンターへの誘導は、効果的に行われたと言える。今後はさらなる内容の充実を目指したい。

#### ②センター来場者啓発プログラム

ワークショップ「my life」は、これからのライフキャリアプランを考える上での、自身の sex の在り方と HIV/STI を見つめ直すきっかけを提供するものとなった。

また「REACH Online 2008」報告会や「Dr. YAMAMOTO の生で聞いてよっ」では、福岡の現状や問題点を、「HIV 感染と医療費負担について」では感染による実際の医療費負担についてを解説し、参加者の意識と行動の変容を促した。

「コンドーム試着室」でのコンドームに対する意識調査アンケートの結果、使用するコンドームの入手先は？という問いに対し、ドラッグストア 44%、コンビニエンスストア 13%、ゲイショップ 6%、その他 6%という回答が得られ、無料配布の LAF コンドーム 31%に対し、約 7 割の 69%が自主的な購入を行っていることが分かった。この結果を層別解析に当てはめると、やはり haco 来場者の予防行動への意識は高いと言え、haco でのプログラムの有用性の傍証ともなっている。

### 3. 有用性が証明された啓発の継続と検証

#### 1) コンドームアウトリーチ

今年度、バー及びハッテン場へのコンドーム配布回数を減らし、コンドームの自主的な購入と使用を促すプログラムを実施したことによる LAF コンドームの取得率と、コンドームの使用率および購入率の変化は、来年度のバーアンケート調査で計測する予定である。

#### 2) コミュニティペーパーseason

season の形状リニューアルにより誌面の量が増えたことで、より多くの予防やコミュニティに関する情報を掲載できるようになった。また、このリニューアルによる話題性で今後の season の認知度上昇も期待できる。season の取得率および認知度の変化は、コンドーム使用率および購入率と同様に、来年度のバーアンケート調査で計測する予定である。

#### 4. 他地域との活動のネットワーク化

北九州市の地元協力者によるアウトリーチの定例化により、これまで掲げてきた「他地

域との活動のネットワーク化’ という目標はある程度達成されたと言える。

今後も継続したサポートを行いながら、将来的には北九州市の行政担当者と繋ぎ、独自の展開を目指してもらう予定である。

## 5. コミュニティ内での連携強化

協団体 LTF の組織により、福岡のゲイコミュニティを大きく巻き込んだイベントウィーク「マルハク」の開催に至り、これにより各イベントのオーガナイザーとの連携がこれまで以上に強化された。今年度3月のブルジョア男太鼓での協働も決まっており、すでに来年度の協働への動きも始まっている。

また、バーマスターを集めたマルハク説明会での初来場者 26 名は全て、これまで haco を訪れたことのなかったバーマスター及び店子等の関係者であり、これだけのコミュニティの、いわばキーパーソンの haco の来場を得たことは、今後のコミュニティにおける活動および認知に大きく関係してくると思われる。

## 6. 行政及び外部協力者との連携

### 1) 行政との連携

今年度は新型インフルエンザ対応のため地元行政との協働が実現できなかったが、来年度は、今年度予定されていた MSM 対象の検査会の実施を予定している。

### 2) 外部協力者との連携：福岡での MSM メンタルヘルスサポート体制の構築

メンタルケアにおける医療の現状と、ゲイコミュニティ側の現状を互いに共有し、共同し総合的な福岡の MSM に対するメンタルサポート体制の構築が必要であるという結論に至り、haco でのワークショップ「my life」主催の九州産業大学 臨床心理士 平井達也氏、九州医療センター 臨床心理士 辻麻理子氏、飯塚記念病院 精神科医 小楠真澄氏による、「福岡 MSM メンタルヘルス連絡会 (仮)」を発

足させた。

今後、相互の情報交換を行いながら、福岡の MSM に対する総合的なメンタルサポート体制の構築を目指す予定である。

## E. 結語

コミュニティセンター haco の開設から3年が経過し、毎月一定の来場者数を維持することが出来ている。これは他の地域同様、福岡のゲイコミュニティの中でその存在がコミュニティメンバーに HIV/AIDS を身近なものとして捉えさせる‘コミュニティセンター’ という概念が定着してきていることのひとつの証明である。並行して行なわれているバーサーベイなどの性行動調査においても、コンドーム使用意志など予防行動改善においてコミュニティセンターの存在は大きく、今後も HIV および性感染症感染予防におけるその有用性はより大きくなると考えられる。

しかし、未だ各地域の行政はこういった MSM に対する HIV 予防啓発の重要性を認識しているとは言い難く、CBO の活動に対するサポート体制が十分であるとは言えない。地方の小さな MSM コミュニティとはいえ、年齢や趣向などにより細分化されたコミュニティに対し、少人数の人員で継続したアプローチを行うにも限界があり、拡大を続ける HIV 感染に対する予防啓発のためには、今後国および地方自治体のさらなる参加支援が必要不可欠である。

今年度、福岡グループでは対象であるゲイコミュニティを層別解析し、各層別の予防啓発戦略を構築した。しかし、MSM コミュニティの層別解析は、あくまでアプローチを考える際にコミュニティを対象として捉えやすくするための「コミュニティセンター haco への来場」を指標とした一つの定義である。しかしながら、実際の MSM の心理構造はもっと複雑で多重的なものであり、それは haco の開設から増加の一途をたどる、来場者からのメン

タル面での相談依頼の多さからもうかがい知れる。

HIV そのもの、またはセクシャリティに対する社会からの差別を恐れ、自身のHIV感染やセクシャリティを世間に明かすことが出来ない状況は、まだまだ社会に在る。セクシャリティに対する差別偏見やHIV感染の精神的なショック、スティグマを一人で抱え込むことによる抑うつなどは、感染の有無にかかわらず多くの人にとってメンタルヘルス上大きな問題となる。また、そのような抑うつ状態などから逃れるためさらに危険な行動に走ることも決して少なくない。そういった人々を‘自業自得’として見捨てることは簡単だが、結局のところ感染拡大をより促進してしまう結果となり、その社会的損失は計り知れない。予防啓発活動のいっそうの充実のみならず、コミュニティにおけるメンタルヘルスサポート体制の構築も今後の重要な課題となりつつある。

一方で、昨年度福岡で実施したバーアンケート調査の結果、45歳以上のMSMはそれ以下のMSM群と比較して、LAFおよびLAFが実施しているプログラム、コミュニティセンターhacoの認知が低く、またHIV抗体検査受検率、コンドーム使用率も低く、有意差が見られた。また、45歳以上で初めてHIV感染を指摘された患者は45歳未満に比較して有意にAIDS発症が多かった。つまり、45歳以上のMSMへは情報が十分に届きにくいいため、予防行動や検査行動も十分ではなく、その結果AIDSを発症してから初めて感染に気づくことが多いといえる。これらのことより、今後は45歳以上を対象とした啓発プログラムの開発も必要と考えられる。

## F. 発表論文等

(研究論文)

- 1) Minami R, Yamamoto M, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E: High molecular

weight form of adiponectin in antiretroviral drug-induced dyslipidemia in HIV-infected Japanese individuals based on in vivo and in vitro analyses. Intern Med. 2009; 48(20): 1799-875.

- 2) Minami R, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E, and Yamamoto M: Human herpesvirus 8 DNA load in the leukocytes correlates with thrombocytopenia in HIV-1 infected individuals. AIDS Res Hum Retroviruses. 25(1), 1-8, 2009.
- 3) 南留美, 高濱宗一郎, 安藤仁, 山本政弘: 治療後ウエスタンブロット法にて抗HIV抗体が陰性化し持続しているHIV感染症の一例. 感染症学会雑誌 83(3), 251-255, 2009.

(海外学会発表)

- 1) Minami R, Takahama S, Ando H, Yamamoto M: The effect of antiretroviral drug on the lipid metabolism in hepatocytes with and without HCV infection. 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), Bali, Indonesia, August 2009.
- 2) Shingae A, Kaneko N, Shiono S, Makizono Y, Kawamoto D, Nino T, Hamada S, Hashiguchi S, Kitamura K, Yamamoto M, Ichikawa S: Characteristics of MSM who are ‘Inconsistent’ and ‘Non-Condom Users’: Findings of the Gay Bar Survey in Fukuoka, Japan. 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), Bali, Indonesia, August 2009. Bali, Indonesia

(国内学会発表)

- 1) 安藤 仁, 高濱宗一郎, 南 留美, 山本政弘: Poncet’s disease 合併が疑われた HIV 感染症の 1 例. 第 83 回日本感染症学会総会・学術講演会, 平成 21 年 4 月 23 日, 東京.